



高等学校「地理A」・「地理総合」教科書掲載の景観写真の読み取りを促す非連続型テキストの数的推移とその分析 : 3出版社の教科書を対象として

久保, 哲成

(Citation)

兵庫地理, 70:89-101

(Issue Date)

2025

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100495946>



高等学校「地理 A」・「地理総合」教科書掲載の景観写真の 読み取りを促す非連続型テキストの数的推移とその分析

－ 3 出版社の教科書を対象として－

久保 哲成

I. はじめにー研究の目的ー

朝倉・平田 (1962) に「地域の具体的な理解を図るには、いろいろな指導法があろうが、教科書に豊富に掲載されている写真を、もっと有効に利用することもその一つであろう。」との記述があり、教科書に掲載された写真（景観写真を含む）の有効な利用が生徒たちの地理学習を促進させる教材となることに言及している。ただ、その教科書掲載の写真の教材としての具体的な活用方法についての記述はない。

しかし、高等学校学習指導要領をみると、平成 11 (1999) 年告示と平成 21 (2009) 年告示の（以下、告示年のみの表記とする）の「地理 A」、「地理 B」の分野、平成 30 (2018) 年告示の「地理総合」、「地理探究」の分野で、「地理的な見方・考え方」を高めるための「地理的技能」として「景観写真の読み取り」技能習得の重要性が明記されるようになり、景観写真の読み取りの技能への関心が高まっている。

また、筆者自身が高等学校教員として、「地理 B」を教えるなかで、教科書掲載の景観写真の位置づけ、読み取りの促しに大きな変化が現れてきていると感じた。

このような教科書に掲載された景観写真の位置づけが大きく変化してきているにも関わらず、教科書掲載の景観写真に関する過去の研究は非常に少ない。

沖 (2002) の初版発行が明治期である地理書および地理教科書を対象とした調査、研究。澤田 (2015) の学習指導要領改訂を基準に 5 つの年代を

設定し、小学校地図帳¹⁾に掲載されている写真の撮影対象の国、写真内容を分析した研究。あるいは、筆者の久保 (2024a) の中学校社会科地理的分野教科書における掲載景観写真の読み取りを促進する「連続型テキスト」²⁾、「非連続型テキスト」³⁾と景観写真との関係性を分析した研究、久保 (2024b) の高等学校「地理 A」、「地理総合」の教科書分析ー掲載の景観写真の読み取りを連続型、非連続型テキストの視点から数的な変化を総量的に分析した研究、と数が少ない。

今回の論文は、久保 (2024b) の総量的な分析に続く研究である。この総量的な分析では「非連続型テキスト」による景観写真の読み取りの重要性が高まっているとともに、「非連続型テキスト」では「地図」による読み取りの促しが最も多く、次いで「グラフ」が多い。また「模式図・イラスト (イラストレーションの略称)」での読み取りの促しも増加しつつあるとの分析結果を得た。

この分析結果をより精度の高いものにするために、今回の研究では、「非連続型テキスト」の種類数・内容別に分析することを試みた。

II. 分析範囲

以下の 1)、2)、3) は、久保 (2024b) で分析を行った際に準ずるものである。

1) 分析対象教科書

分析対象の教科書は A 社、B 社、C 社の 3 社⁴⁾の「地理 A」、「地理総合」である。この 3 社は「地理 B」、「地理探究」教科書も出版しており、今後の「地理 B」、「地理探究」教科書対象の分析

との比較が容易と考えて、この3社の教科書を分析対象とした。A社の「地理A」、「地理総合」の教科書は2種類あり、どちらも分析対象とした。

この3社から出版された最初の「地理A」教科書の検定年は平成5（1993）年か平成6（1994）年である。その後、平成11（1999）年告示を受けた「地理A」教科書の検定年は、平成9（1997）年か平成10（1998）年、平成14（2002）年か平成15（2003）年である。平成21（2009）年告示を受けた「地理A」教科書の検定年は平成24（2012）年か平成25（2013）年、平成28（2016）年か平成29（2017）年である。平成30（2018）年告示を受けた「地理総合」教科書の検定年は、令和3（2021）年か令和4（2022）年である。

2) 教科書内における景観写真の分析範囲

教科書掲載の分析対象となる景観写真は、本文に則して載っている景観写真とした。ここでの本文とは教科書の本文ページ数を記した範囲の文章である。よって、巻頭・巻末、口絵等に掲載されている景観写真は対象外となる。

ここで分析範囲を本文としたのは、授業では、本文内容を中心に授業が進められ、教師の学習指導では巻頭・巻末、口絵への言及は非常にまれであるからである。

また、本文内ではあるが、「地域調査」に類する単元の景観写真は対象外とした。その理由は次の2点である。1点目は、調査対象地域で撮影された景観写真が多数掲載されるので、特定地域の景観写真の数が多くなり、偏りがでてくる。2点目は、知識重視の授業ではこの単元の学習を軽視する傾向がある。以上の2点が対象外とした理由である。

3) 分析対象の景観写真の範囲

以下の種類以外の掲載写真を分析対象の景観写真とした。

- ① 衛星写真：衛星から送られてきた写真画像。
基本的に、地域の景観を捉えきれないから除外。
- ② 標本写真（田中 1935）：看板、標識、農作物、家畜・動物等を写した写真で、背景が写っ

ていない写真。

Ⅲ. 「連続型テキスト」と「非連続型テキスト」

以下の1)、2)も、久保（2024b）で分析を行った際に準ずるものである。

1) 2つのテキストの定義

今回の分析では景観写真の読み取りを促す「非連続型テキスト」の種類数と種類内容で行っていく。「連続型テキスト」と「非連続型テキスト」の定義は文部科学省（2005）に依拠する⁵⁾。この定義のもと、次の節に示すように教科書に記載されている「連続型テキスト」と「非連続型テキスト」の具体的内容を種類に分類し分析を進めた。

2) 2つのテキストの種類とその内容

1. 「連続型テキスト」の種類と内容

- ① 「解説文」：景観写真のキャプションを補う文章。
- ② 「コラム文」：本文から外れて別枠を設けて、景観写真を詳しく解説している文章。

2. 「非連続型テキスト」の種類と内容

- ① 「地図」：地形図・地勢図、主題図。
- ② 「グラフ」：各種グラフ。
- ③ 「表・資料」：分類表、年表、その他の碑文等の資料⁶⁾
- ④ 「模式図・イラスト」：模式図、イラストレーション、絵画類。

3) 「非連続型テキスト」の分析対象とそのページ

分析対象のページは景観写真が掲載されているページを含めた見開き2ページにある。その見開き2ページ内にある「非連続型テキスト」のうち、景観写真の読み取りを促す機能を有した「非連続型テキスト」を分析の対象とした。

見開き2ページを分析対象とした理由は、通常の生徒の学習行動から推察して、見開き2ページ内の景観写真と「非連続型テキスト」の確認は容易にするが、他のページにわたって確認することは積極的に行わないという、教師経験上からの判断である。

第1表 読み取りを促すテキスト種類別にみた景観写真枚数の推移

A社・1	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計(%)		
	連続型テキストのみ使用	52	37	53	63	114	106	94	519	31.7		
	非連続型テキストのみ使用	30	25	36	39	54	99	85	368	22.5		
	連続・非連続型テキスト併用	24	81	58	135	184	99	171	752	45.9		
	A計	106	143	147	237	352	304	350	1639	100		
A社・2	教科書検定年	平成6年	平成10年	平成15年	平成19年	平成24年	平成28年	令和3年	B計	B計/AB計(%)		
	連続型テキストのみ使用	36	45	72	55	51	70	79	408	23.6		
	非連続型テキストのみ使用	39	43	97	107	89	90	139	604	35.0		
	連続・非連続型テキスト併用	25	76	93	65	168	146	143	716	41.4		
	A計	100	164	262	227	308	306	361	1728	100		
B社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年	B計	B計/AB計(%)		
	連続型テキストのみ使用	44	37	30	47	79	120	88	445	37.4		
	非連続型テキストのみ使用	7	21	57	62	75	65	78	365	30.7		
	連続・非連続型テキスト併用	12	34	56	68	52	62	95	379	31.9		
	A計	63	92	143	177	206	247	261	1189	100		
C社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成10年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年A	令和3年B	B計	B計/AB計(%)
	連続型テキストのみ使用	27	45	77	54	65	79	148	155	103	753	37.6
	非連続型テキストのみ使用	34	24	44	19	46	131	5	43	93	439	21.9
	連続・非連続型テキスト併用	17	91	51	54	60	41	180	173	142	809	40.4
	A計	78	160	172	127	171	251	333	371	338	2001	100

IV. テキスト別分析

教科書に掲載されている景観写真の読み取りの促しの全体像を概観するため、テキスト別分析を行った。ここでのテキスト別分析とは上記に記した、「連続型テキスト」（以下、「連続型」と表記）、「非連続型テキスト」（以下、「非連続型」と表記）をもとに、「連続型のみ使用」、「非連続型のみ使用」、「連続型・非連続型併用」の3つの分類で行った。分析は、3社4教科書の景観写真を、前記の3分類別に、総枚数（B計）、割合（%）（B計/AB計（A計とB計の交点））で行った（第1表）。以下の分析も各表のB計とB計割合（%）（B計/AB計（A計とB計の交点））で行った。

「連続型のみ使用」を見ると、A社・1は519枚で31.7%、A社・2は408枚で23.6%、B社は445枚で37.4%、C社は753枚で37.6%となっている。

「非連続型のみ使用」を見ると、A社・1は368枚で22.5%、A社・2は604枚で35.0%、B社は365枚で30.7%、C社は439枚で21.9%となっている。

「連続型・非連続型併用」を見ると、A社・1は752枚で45.9%、A社・2は716枚で41.4%、B

社は379枚で31.9%、C社は809枚で40.4%となっている。

「非連続型のみ」の割合（%）を見ると、3種類のなかで、A社・2のみ2番目でA社・1、B社、C社では3番目と、下位に位置する。

「連続・非連続型併用」の割合（%）を見ると、A社・1、A社・2、C社で最も高い割合（%）を示して、B社のみ2番目であり、上位に位置する。

しかし、「非連続型のみ」と「連続・非連続型併用」の割合（%）の和は、A社・1は68.4%、A社・2は76.4%、B社は62.6%、C社は62.3%、となり「非連続型テキスト」が読み取りの促しに関わっている景観写真の数は、3社4教科書すべてで、60%以上となっている。

よって、この「非連続型」の読み取りの促しへの関わり方を分析することは、「地理A」、「地理総合」における景観写真の位置づけ、「非連続型テキスト」の果たしている役割を明確に知らせてくれるものである。

V. 「非連続型のみ」で読み取りが促される景観写真分析

まず、「非連続型のみ」を使用して読み取りの促しを行う場合を分析してみる。

1) 種類数別分析の対象

3社4教科書の「1種類」「2種類」「3種類以上」別の対象写真枚数の合計のB計とB計割合(%)を分析する(第2表)。

A社・1では、AB計342枚のうち「1種類」B計は280枚で81.9%、「2種類」B計は62枚で18.1%、「3種類以上」B計は0枚で0%、である。

A社・2では、AB計563枚のうち、「1種類」B計は386枚で68.6%、「2種類」B計は162枚で28.8%、「3種類以上」B計は15枚で2.7%、である。

B社では、AB計364枚のうち、「1種類」B計は291枚で79.9%、「2種類」B計は66枚で18.1%、「3種類以上」B計は8枚で2.2%、である。

C社では、AB計416枚のうち、「1種類」B計は356枚で85.6%、「2種類」B計は59枚で14.2%、「3種類以上」B計は1枚で0.2%、である。

以上から、3社4種類教科書すべてで、B計が多い順は「1種類」、「2種類」、「3種類以上」ある。当然、B計割合(%)の高い順も「1種類」、「2種類」、「3種類以上」ある。特に「1種類」のB計割合(%)は非常に高い。次いで「2種類」が

2番目に高いが、「1種類」と比較すると、さほど高くはない。「3種類以上」の割合(%)は非常に低い。よって、次の「非連続型テキスト」の種類別分析は、「1種類」と「2種類」を分析。「3種類以上」の場合は、枚数も少なく、割合(%)の数値も低いので分析から除外した。

2) 1種類の「非連続型」での読み取りの促し分析—枚数と割合(%)

B計割合(%)の算出方法は、B計/AB計×100である(第3表)。このB計割合(%)を3社4教科書で「地図(地形図も含む)」「以下、「地図」と表記)、「グラフ」、「模式図・イラスト」、「表・資料」の順で分析する。

1. 「地図」

A社・1では280枚中187枚で66.8%、A社・2では386枚中260枚で67.4%、B社では609枚中394枚で64.7%、C社では356枚中241枚で67.7%である。3社4教科書すべて60%台で、4つの種類の「非連続型」の中で最も高い数値を示している。

2. 「グラフ」

A社・1では280枚中47枚で16.8%、A社・2で

第2表 読み取りを促す非連続型テキスト種類数別景観写真枚数の推移(非連続型テキストのみ使用)

A社・1	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計(%)		
	1種類	26	16	19	22	43	85	69	280	81.9		
	2種類	4	8	16	10	8	6	10	62	18.1		
	3種類以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	A計	30	24	35	32	51	91	79	342	100		
A社・2	教科書検定年	平成6年	平成10年	平成15年	平成19年	平成24年	平成28年	令和3年	B計	B計/AB計(%)		
	1種類	24	24	59	69	49	53	108	386	68.6		
	2種類	12	7	33	34	28	25	23	162	28.8		
	3種類以上	1	3	2	1	1	4	3	15	2.7		
	A計	37	34	94	104	78	82	134	563	100		
B社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年	B計	B計/AB計(%)		
	1種類	5	21	45	41	68	53	58	291	79.9		
	2種類	2	0	12	20	7	12	13	66	18.1		
	3種類以上	0	0	0	1	0	0	7	8	2.2		
	A計	7	21	57	61	75	65	78	364	100		
C社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成10年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年A	令和3年B	B計	B計/AB計(%)
	1種類	26	18	40	16	36	117	4	35	64	356	85.6
	2種類	5	2	3	2	9	9	1	8	20	59	14.2
	3種類以上	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.2
	A計	31	20	43	19	45	126	5	43	84	416	100

第3表 読み取りを促す1種類の非連続テキスト型の種類別景観写真枚数の推移(非連続型テキストのみ使用)

A社-1	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計(%)		
	地図(地形図も含む)	13	9	16	16	24	63	46	187	66.8		
	グラフ	12	4	2	5	6	12	6	47	16.8		
	模式図・イラスト	1	1	0	1	13	10	17	43	15.4		
	表・資料	0	2	1	0	0	0	0	3	1.1		
	A計	26	16	19	22	43	85	69	280	100		
A社-2	教科書検定年	平成6年	平成10年	平成15年	平成19年	平成24年	平成28年	令和3年	B計	B計/AB計(%)		
	地図(地形図も含む)	16	20	29	53	35	33	74	260	67.4		
	グラフ	6	4	20	6	10	6	14	66	17.1		
	模式図・イラスト	2	0	10	9	4	13	20	58	15.0		
	表・資料	0	0	0	1	0	1	0	2	0.5		
	A計	24	24	59	69	49	53	108	386	100		
B社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年	B計	B計/AB計(%)		
	地図(地形図も含む)	4	39	46	78	79	75	73	394	64.7		
	グラフ	7	4	8	8	8	11	29	75	12.3		
	模式図・イラスト	1	9	22	17	17	17	28	111	18.2		
	表・資料	1	1	8	3	3	5	6	27	4.4		
	A計	13	53	84	106	107	108	138	609	100		
C社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成10年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年A	令和3年B	B計	B計/AB計(%)
	地図(地形図も含む)	16	11	23	10	22	97	3	11	48	241	67.7
	グラフ	4	6	10	2	5	5	0	0	8	40	11.2
	模式図・イラスト	6	1	6	1	9	12	1	23	3	62	17.4
	表・資料	0	0	1	3	0	3	0	1	5	13	3.7
	A計	26	18	40	16	36	117	4	35	64	356	100

は386枚中66枚で17.1%、B社では609枚中75枚で12.3%、C社では356枚中40枚で11.2%となっている。A社・1とA社・2では4種類中2番目に高い数値を示している。しかし、B社とC社では3番目の数値を示している。

3. 「模式図・イラスト」

A社・1では280枚中43枚で15.4%、A社・2では386枚中58枚で15.0%、B社では609枚中111枚で18.2%、C社では356枚中62枚で17.4%である。B社とC社は4種類中2番目に高い数値を示している。A社・1とA社・2は4種類中3番目の数値である。

4. 「表・資料」

A社・1では280枚中3枚で1.1%、A社・2では386枚中2枚で0.5%、B社では609枚中27枚で4.4%、C社では356枚中13枚で3.7%である。3社4教科書すべてにおいて「表・資料」が最も数値は低く5%以内である。

3) 2種類の「非連続型」での読み取りの促し分析

1. B計枚数とB計割合(%)の分析

B計の枚数とB計割合(%)を3社4教科書で分析する(第4表)。

① A社・1 「地図+グラフ」66枚中26枚で39.4%、「地図+地図」66枚中14枚で21.2%、「地

図+模式図・イラスト」66枚中11枚で16.7%、「地図+表・資料」66枚中7枚で10.6%、「模式図・イラスト+模式図・イラスト」66枚中4枚で6.1%、「グラフ+模式図・イラスト」66枚中1枚で1.5%となっている。他の種類の組み合わせは0枚、0%となっている。

② A社・2 「地図+グラフ」173枚中116枚で67.1%、「地図+地図」173枚中32枚で18.5%、「地図+模式図・イラスト」173枚中14枚で8.1%、「グラフ+グラフ」173枚中4枚で2.3%、「地図+表・資料」173枚中3枚で1.7%、「グラフ+模式図・イラスト」173枚中3枚で1.7%、「模式図・イラスト+模式図・イラスト」173枚中1枚で0.6%となっている。他の種類の組み合わせは0枚、0%となっている。

③ B社 「地図+グラフ」81枚中32枚で39.5%、「地図+地図」81枚中25枚で30.9%、「地図+模式図・イラスト」81枚中14枚で17.3%、「地図+表・資料」81枚中5枚で6.2%、「グラフ+グラフ」81枚中5枚で6.2%、となっている。他の種類の組み合わせは0枚、0%となっている。

④ C社 「地図+グラフ」70枚中25枚で35.7%、「地図+地図」70枚中17枚で24.3%、「地図+模式図・イラスト」70枚中16枚で22.9%、

第4表 読み取りを促す2種類の非連続型テキストの組み合わせ別景観写真枚数の推移(非連続型テキストのみ使用)

A社・1	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計(%)		
	地図＋地図		1	1	2	1	4	5	14	21.2		
	地図＋グラフ	3	2	1	8		4	8	26	39.4		
	地図＋模式図・イラスト		3	4		1	1	2	11	16.7		
	地図＋表・資料		1			6			7	10.6		
	グラフ＋グラフ				1		1	1	3	4.5		
	グラフ＋模式図・イラスト			1					1	1.5		
	グラフ＋表・資料											
	模式図・イラスト＋模式図・イラスト					2	2		4	6.1		
	模式図・イラスト＋表・資料											
	表・資料＋表・資料											
	A計	3	7	7	11	10	12	16	66	100		
A社・2	教科書検定年	平成6年	平成10年	平成15年	平成19年	平成24年	平成28年	令和3年	B計	B計/AB計(%)		
	地図＋地図		7	2	2	9	7	5	32	18.5		
	地図＋グラフ	5	3	27	28	21	16	16	116	67.1		
	地図＋模式図・イラスト	3	2	1	1		3	4	14	8.1		
	地図＋表・資料			3					3	1.7		
	グラフ＋グラフ	2	2						4	2.3		
	グラフ＋模式図・イラスト			1		1	1		3	1.7		
	グラフ＋表・資料											
	模式図・イラスト＋模式図・イラスト				1				1	0.6		
	模式図・イラスト＋表・資料											
	表・資料＋表・資料											
	A計	10	14	34	32	31	27	25	173	100		
B社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年	B計	B計/AB計(%)		
	地図＋地図			11	4	6	3	1	25	30.9		
	地図＋グラフ	1		5	13	3	8	2	32	39.5		
	地図＋模式図・イラスト			3	2	2	2	5	14	17.3		
	地図＋表・資料					2	2	1	5	6.2		
	グラフ＋グラフ				2	1		2	5	6.2		
	グラフ＋模式図・イラスト											
	グラフ＋表・資料			1	1			1				
	模式図・イラスト＋模式図・イラスト											
	模式図・イラスト＋表・資料											
	表・資料＋表・資料											
	A計	1	0	20	22	14	15	12	81	100		
C社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成10年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年A	令和3年B	B計	B計/AB計(%)
	地図＋地図	2	2	1		1	5			6	17	24.3
	地図＋グラフ	3			1	4	2	1	2	12	25	35.7
	地図＋模式図・イラスト		1	3	1	4	1		3	3	16	22.9
	地図＋表・資料	1				1	5		2		9	12.9
	グラフ＋グラフ	1								1	2	2.9
	グラフ＋模式図・イラスト											
	グラフ＋表・資料		1								1	1.4
	模式図・イラスト＋模式図・イラスト											
	模式図・イラスト＋表・資料											
	表・資料＋表・資料											
	A計	7	4	4	2	10	13	1	7	22	70	100

*空欄は0枚,0%を示す。

「地図＋表・資料」70 枚中 9 枚で 12.9%、「グラフ＋グラフ」70 枚中 2 枚で 2.9%、「グラフ＋表・資料」70 枚中 1 枚で 1.4%、となっている。他の種類の組み合わせは 0 枚、0%となっている。

以上より、3 社 4 教科書で「地図＋グラフ」の組み合わせの対象写真の枚数が最も多く、割合(%) も高いことがわかる。

次に対象写真の枚数が最も多く、割合(%) も高い組み合わせは、「地図＋地図」で、すべての教科書で 2 位であった。

3 番目に対象写真の枚数が多く割合(%) も高い組み合わせは「地図＋模式図・イラスト」である。

つまり、「地図＋表・資料」を含めて、組み合

第5表 2種類の非連続型テキストで「地図＋α」の組み合わせの写真枚数と割合(%)の推移(非連続型テキストのみ使用)

A社・1	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成29年	令和4年	総計			
	総枚数	3	7	7	11	10	12	16	66			
	「地図＋α」枚数	3	7	6	10	8	9	15	58			
	「地図＋α」枚数の総枚数に占める割合(%)	100	100	85.7	90.9	80.0	75.0	93.8	87.9			
A社・2	教科書検定年	平成6年	平成10年	平成15年	平成19年	平成24年	平成28年	令和3年	総計			
	総枚数	10	14	34	32	31	27	25	173			
	「地図＋α」枚数	8	12	33	31	30	26	25	165			
	「地図＋α」枚数の総枚数に占める割合(%)	80.0	85.7	97.1	96.9	96.8	96.3	100	95.4			
B社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年	総計			
	総枚数	1	0	20	22	14	15	12	80			
	「地図＋α」枚数	1	0	19	19	13	15	9	76			
	「地図＋α」枚数の総枚数に占める割合(%)	100	0	95.0	86.4	92.9	100	75.0	95.0			
C社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成10年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年A	令和3年B	総計	
	総枚数	7	4	4	2	10	13	1	7	22	70	
	「地図＋α」枚数	6	3	4	2	10	13	1	7	21	67	
	「地図＋α」枚数の総枚数に占める割合(%)	85.7	75.0	100	100	100	100	100	100	95.5	95.7	

わせの柱は、「地図＋α」の組み合わせであることがわかる。

2. 2種類の「非連続型」の組み合わせの分析

次に2種類の「非連続型」での読み取りの促しでの2種類の組み合わせを分析してみる。前節の分析とともに、1種類の「非連続型」の分析において「地図」による読み取りの促しが非常に多かったので、「地図」との組み合わせに着目して分析した(第5表)。

3社4教科書の「総枚数」と「地図＋α」枚数とその割合(%)の比較を見てみると、A・1社は66枚中58枚で87.9%、A社・2では173枚中165枚で95.4%、B社で80枚中76枚で95.0%、C社は

70枚中67枚で95.7%となる(第5表)。

「地図＋α」の割合(%)は、3教科書で95%台、のこりの1教科書も87.9%と、各教科書で非常に高い数値を示している。つまり、2種類の「非連続型」の組み合わせは、「地図＋α」の組み合わせがほとんどであることがわかる。

この「地図＋α」の全教科書に占める枚数と割合(%)は389枚のうちの366枚で94.1%となり、ほぼ95%に近い数値であることがわかる。

2種類の「非連続型」の組み合わせはほとんどが「地図＋α」の形であることがわかる。ここでも「地図」が読み取りを促す「非連続型」の中心であることがわかる。

第6表 読み取りを促す非連続型テキスト使用種類数別の景観写真枚数の推移(連続型・非連続型テキスト併用)

A社・1	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計(%)		
	1種類使用	16	49	31	66	140	76	142	520	69.1		
	2種類使用	4	24	22	55	39	19	27	190	25.3		
	3種類以上使用	4	8	5	14	5	4	2	42	5.6		
	A計	24	81	58	135	184	99	171	752	100		
A社・2	教科書検定年	平成6年	平成10年	平成15年	平成19年	平成24年	平成28年	令和3年	B計	B計/AB計(%)		
	1種類使用	17	36	59	45	75	59	114	405	55.5		
	2種類使用	10	22	33	14	83	68	27	257	35.2		
	3種類以上使用	1	18	3	5	10	29	2	68	9.3		
	A計	28	76	95	64	168	156	143	730	100		
B社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年	B計	B計/AB計(%)		
	1種類使用	7	30	29	32	35	48	70	251	65.9		
	2種類使用	4	4	25	21	17	7	25	103	27.0		
	3種類以上使用	1	1	2	15	0	7	1	27	7.1		
	A計	12	35	56	68	52	62	96	381	100		
C社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成10年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年A	令和3年B	B計	B計/AB計(%)
	1種類使用	15	72	48	51	54	28	154	143	84	649	80.1
	2種類使用	2	17	3	2	6	10	25	29	51	145	17.9
	3種類以上使用	0	2	0	1	0	3	1	2	7	16	2.0
	A計	17	91	51	54	60	41	180	174	142	810	100

VI. 「連続型と非連続型の併用」での読み取り促しの分析

この章では「連続型と非連続型併用」の分析を行っていく。「解説文」、「コラム文」、「解説文・コラム文併用」の「連続型」と「地図」、「グラフ」、「模式図・イラスト」、「表・資料」の「非連続型」の併用で読み取りを促される景観写真を対象とした分析である。

「連続型と非連続型併用」の種類の分類は「非連続型」の種類で行った。この章の分析では、「連続型」の種類や数は考えずに、一括りに「連続型」として、4種類の「非連続型」の種類分けで分析した。また、「連続型」をテキストの数に入れず「非連続型」の種類の数で区分して分析をした。

1) 種類数別分析の対象

3社4教科書の「1種類」「2種類」「3種類以上」別の対象写真枚数の合計のB計とB計割合(%)を分析する(第6表)。

A社・1では、AB計752枚のうち「1種類」B計

は520枚で69.1%、「2種類」B計は190枚で25.3%、「3種類以上」B計は42枚で5.6%、である。

A社・2では、AB計730枚のうち、「1種類」B計は405枚で55.5%、「2種類」B計は257枚で35.2%、「3種類以上」B計68枚で9.3%、である。

B社では、AB計381枚のうち、「1種類」B計は251枚で65.9%、「2種類」B計は103枚で27.0%、「3種類以上」B計は27枚で7.1%、である。

C社では、AB計810枚のうち、「1種類」B計は649枚で80.1%、「2種類」B計は145枚で17.9%、「3種類以上」B計は16枚で2.0%、である。

以上から、3社4種類教科書すべてで、B計が多い順は「1種類」、「2種類」、「3種類以上」ある。当然、B計割合(%)の高い順も「1種類」、「2種類」、「3種類以上」ある。特に「1種類」のB計割合(%)は非常に高い。次いで「2種類」が2番目に高いが、「1種類」と比較すると、さほど高くはない。「3種類以上」の割合(%)は非常に低い。よって、次の「非連続型テキスト」の種類別分析は、「1種類」と「2種類」を分析する。

「3種類上」の場合は、枚数も少なく、割合(%)

第7表 読み取りを促す1種類の非連続型テキストの種類別景観写真枚数の推移(連続型・非連続型テキスト併用)

A社-1	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計(%)		
	地図(地形図も含む)	13	39	20	36	100	56	107	371	71.3		
	グラフ	0	3	2	20	24	17	15	81	15.6		
	模式図・イラスト	3	2	7	7	14	3	20	56	10.8		
	表・資料	0	5	2	3	2	0	0	12	2.3		
	A計	16	49	31	66	140	76	142	520	100		
A社-2	教科書検定年	平成6年	平成10年	平成15年	平成19年	平成24年	平成28年	令和3年	B計	B計/AB計(%)		
	地図(地形図も含む)	16	29	40	34	46	29	70	264	65.2		
	グラフ	1	4	9	6	4	14	14	52	12.8		
	模式図・イラスト	0	3	10	4	16	14	29	76	18.8		
	表・資料	0	0	0	1	9	2	1	13	3.2		
	A計	17	36	59	45	75	59	114	405	100		
B社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年	B計	B計/AB計(%)		
	地図(地形図も含む)	4	28	21	17	29	37	39	175	69.4		
	グラフ	3	0	2	3	2	4	13	27	10.7		
	模式図・イラスト	1	2	5	8	2	3	15	36	14.3		
	表・資料	0	0	1	4	2	4	3	14	5.6		
	A計	8	30	29	32	35	48	70	252	100		
C社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成10年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年A	令和3年B	B計	B計/AB計(%)
	地図(地形図も含む)	8	61	38	42	43	18	111	116	45	482	74.3
	グラフ	6	7	2	3	6	4	18	9	14	69	10.6
	模式図・イラスト	1	4	8	3	3	5	18	17	20	79	12.2
	表・資料	0	0	0	3	2	1	7	1	5	19	2.9
	A計	15	72	48	51	54	28	154	143	84	649	100

の数値も低いので分析から除外した。

2) 1 種類の「非連続型」での読み取りの促し分析—枚数と割合 (%)

B 計割合 (%) を 3 社 4 教科書で「地図」、「グラフ」、「模式図・イラスト」、「表・資料」の順で分析する (第 7 表)。

1. 「地図」

A 社・1 では 520 枚中 371 枚で 71.3%、A 社・2 では 405 枚中 264 枚で 65.2%、B 社では 252 枚中 175 枚で 69.4%、C 社では 649 枚中 482 枚で 74.3% である。3 社 4 教科書すべてで 65%~75%で、4 つ

の種類の「非連続型」の中で最も高い数値を示している。

2. 「グラフ」

A 社・1 では 520 枚中 81 枚で 15.6%、A 社・2 では 405 枚中 52 枚で 12.8%、B 社では 252 枚中 27 枚で 10.7%、C 社では 649 枚中 69 枚で 10.6%である。A 社・1 は 4 種類中の 2 番目だが、A 社・2、B 社、C 社は 3 番目である。

3. 「模式図・イラスト」

A 社・1 では 520 枚中 56 枚で 10.8%、A 社・2 では 405 枚中 76 枚で 18.8%、B 社では 252 枚中 36

第8表 読み取りを促す2種類の非連続型テキストの組み合わせ別景観写真枚数の推移(連続型・非連続型テキスト併用)

A社・1	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成29年	令和4年	B計	B計/AB計(%)		
	地図+地図		8	2	10	4	2	5	31	16.3		
	地図+グラフ		10	17	38	24	9	15	113	59.5		
	地図+表・資料		2		1	2		1	6	3.2		
	地図+模式図・イラスト	4	4	3		1	2	6	20	10.5		
	グラフ+グラフ					7	3		10	5.3		
	グラフ+表・資料											
	グラフ+模式図・イラスト											
	表・資料+表・資料											
	表・資料+模式図・イラスト											
	模式図・イラスト+模式図・イラスト				6	1	3		10	5.3		
A計	4	24	22	55	39	19	27	190	100			
A社・2	教科書検定年	平成6年	平成10年	平成15年	平成19年	平成24年	平成28年	令和3年	B計	B計/AB計(%)		
	地図+地図	1	8	3	1	47	32	5	97	37.7		
	地図+グラフ	2	10	15	5	31	30	14	107	41.6		
	地図+表・資料	1		3	1		1	1	7	2.7		
	地図+模式図・イラスト	1	2	3	1	4	2	6	19	7.4		
	グラフ+グラフ	5			1				6	2.3		
	グラフ+表・資料		1	2			1		4	1.6		
	グラフ+模式図・イラスト		1	4	4	1		1	11	4.3		
	表・資料+表・資料											
	表・資料+模式図・イラスト			2	1				3	1.2		
	模式図・イラスト+模式図・イラスト			1			2		3	1.2		
A計	10	22	33	14	83	68	27	257	100			
B社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年	B計	B計/AB計(%)		
	地図+地図	2	2	10	2	3		6	25	24.3		
	地図+グラフ	1		2	10	1	1	7	22	21.4		
	地図+表・資料			11	8	8	4	3	34	33.0		
	地図+模式図・イラスト	1			1	1	1	7	11	10.7		
	グラフ+グラフ		1			1	1	1	4	3.9		
	グラフ+表・資料			2		3			5	4.9		
	グラフ+模式図・イラスト		1						1	1.0		
	表・資料+表・資料											
	表・資料+模式図・イラスト											
	模式図・イラスト+模式図・イラスト							1	1	1.0		
A計	4	4	25	21	17	7	25	103	100			
C社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成10年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年A	令和3年B	B計	B計/AB計(%)
	地図+地図		7		1		4	6	11	8	37	25.5
	地図+グラフ	1	5	3	1		2	6	12	11	41	28.3
	地図+表・資料					2	1	4	2	9	18	12.4
	地図+模式図・イラスト	1	4				2	1	1	8	17	11.7
	グラフ+グラフ							2	1	2	5	3.4
	グラフ+表・資料		1			1				1	3	2.1
	グラフ+模式図・イラスト					2	1	3		7	13	9.0
	表・資料+表・資料											
	表・資料+模式図・イラスト											
	模式図・イラスト+模式図・イラスト					1		3	2	5	11	7.6
A計	2	17	3	2	6	10	25	29	51	145	100	

枚で14.3%、C社では649枚中79で12.2%である。
A社・1は4種類中の3番目だが、A社・2、B社、
C社は2番目である。

4. 「表・資料」

A社・1では520枚中12枚で2.3%、A社・2では405枚中13枚で3.2%、B社では252枚中14枚で5.6%、C社では649枚中19枚で2.9%である。
非常に枚数も少なく割合（%）も低いことがわかる。

3) 2種類の「非連続型」での読み取りの促し分析

1. B計とB計割合（%）の分析

① A社・1 AB計190枚中、「地図+グラフ」は113枚で59.5%、「地図+地図」は31枚で16.3%、「地図+模式図・イラスト」は20枚で10.5%、「グラフ+グラフ」は10枚で5.3%、「模式図・イラスト+模式図・イラスト」は10枚で5.3%、他の種類の組み合わせは0枚、0%となっている（第8表）。

② A社・2 AB計257枚中、「地図+グラフ」は107枚で41.6%、「地図+地図」は97枚で37.7%、「地図+模式図・イラスト」は19枚で7.4%、「グラフ+模式図・イラスト」は11枚で4.3%、「地図+表・資料」は7枚で2.7%、「グラフ+グラフ」は6枚で2.3%、「グラフ+表・資料」は4枚で1.6%、「表・資料+模式図・イラスト」は3枚で1.2%、「模式図・イラスト+模式図・イラスト」は3枚で1.2%となっている。他の種類の組み合わせは0枚、0%となっている。

③ B社 AB計103枚中、「地図+表・資料」

は34枚で33.0%、「地図+地図」は25枚で24.3%、「地図+グラフ」は22枚の21.4%、「地図+模式図・イラスト」は11枚で10.7%、「グラフ+表・資料」は5枚で4.9%、「グラフ+グラフ」は4枚で3.9%、「グラフ+模式図・イラスト」は1枚で1.0%、「模式図・イラスト+模式図・イラスト」は1枚で1.0%となっている。他の種類の組み合わせは0枚、0%となっている。

④ C社 AB計145枚中、「地図+グラフ」は41枚で28.3%、「地図+地図」は37枚で25.5%、「地図+表・資料」は18枚で12.4%、「地図+模式図・イラスト」は17枚で11.7%、「グラフ+模式図・イラスト」は13枚で9.0%、「模式図・イラスト+模式図・イラスト」は11枚で7.6%、「グラフ+グラフ」は5枚で3.4%、「グラフ+表・資料」は3枚で2.1%、となっている。他の種類の組み合わせは0枚、0%となっている。

3社4教科書で、10種類の組み合わせの中で上位3番目までをみている。A社・1では、「地図+グラフ」、「地図+地図」、「地図+模式図・イラスト」となっている。A社・2では、「地図+グラフ」、「地図+地図」、「地図+模式図・イラスト」となっている。

B社では、「地図+表・資料」、「地図+地図」、「地図+グラフ」となっている。C社では、「地図+グラフ」、「地図+地図」、「地図+表・資料」となっている。3社4教科書の上位3位までの組み合わせはすべて「地図+α」である。よって次の節では、「地図+α」の組み合わせについて分

第9表 読み取りを促す2種類の非連続型テキストで「地理+α」の組み合わせ写真枚数と割合(%) (連続型・非連続型テキスト併用)

A社・1	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成25年	平成29年	令和4年	総計		
	総枚数	4	24	22	55	39	19	27	190		
	「地図＋α」枚数	4	24	22	49	31	13	27	170		
	「地図＋α」枚数の総枚数に占める割合(%)	100	100	100	89.0	79.4	68.4	100	89.5		
A社・2	教科書検定年	平成6年	平成10年	平成15年	平成19年	平成24年	平成28年	令和3年	総計		
	総枚数	10	22	33	14	83	68	27	257		
	「地図＋α」枚数	5	20	24	9	82	65	26	231		
	「地図＋α」枚数の総枚数に占める割合(%)	50.0	90.9	72.7	64.2	98.7	95.5	96.2	89.9		
B社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年	総計		
	総枚数	4	4	25	21	17	7	25	103		
	「地図＋α」枚数	4	2	23	21	13	6	23	92		
	「地図＋α」枚数の総枚数に占める割合(%)	100	50.0	92.0	100	76.4	85.7	92.0	89.3		
C社	教科書検定年	平成5年	平成9年	平成10年	平成14年	平成18年	平成24年	平成28年	令和3年A	令和3年B	総計
	総枚数	2	17	3	2	6	10	25	29	51	145
	「地図＋α」枚数	2	16	3	2	2	9	17	26	36	113
	「地図＋α」枚数の総枚数に占める割合(%)	100	94.1	100	100	33.3	90.0	68.0	89.6	70.5	77.9

析を行う。

2.2 種類の「非連続型」の組み合わせの分析

「地図+ α 」の組み合わせの総計とその割合を見ると、A・1社では190枚中170枚で89.5%、A社・2では257枚中231枚で89.9%、B社では103枚中92枚で89.3%、C社では145枚中113枚で77.9%となっている。3教科書で89%台であり、残りの1教科書も77.9%と80%に近い数値となっている。いずれも非常に数値が高いことがわかる。

つまり、2種類の「非連続型」の組み合わせは、「地図+ α 」の組み合わせが中心であることがわかる。「地図」を含まない、2種類の組み合わせ枚数は88枚と少ない（第9表）。

2種類の「非連続型」の組み合わせはほとんどが「地図+ α 」の形であることがわかる。ここでも「地図」が読み取りを促す「非連続型」の中心であることがわかる。

Ⅶ. まとめ

1) 分析結果

1. 「非連続型のみ」での読み取りの促しの分析

① 3社4教科書とも枚数の多い順は、「1種類」、「2種類」、「3種類以上」である。「1種類」が非常に多く。「2種類」はかなり少なくなる。「3種類以上」は非常に少ない。割合(%)も同じ順位である。

② 1種類の「非連続型」での読み取りの促し

a. 「地図」：全教科書で最も多い。

b. 「グラフ」：A社・1、A社・2で2番目に多い。B社とC社で3番目に多い。

c. 「模式図・イラスト」：B社とC社で2番目に多い。A社・1、A社・2で3番目に多い。

d. 「表・資料」：最も少ない。

「地図」が3社4教科書すべてで1位である。「グラフ」と「模式図・イラスト」で2番目と3番目を分け合っている。割合(%)も同じ。

③ 2種類の「非連続型」での読み取りの促し

a. 3社4教科書とも枚数の多い順は、「地図+グラフ」、「地図+地図」、「地図+模式図・イラスト」である。「地図+表・資料」を含め、2種類の「非連続型」の組み合わせは「地図+ α 」が中心である。割合(%)も同じ傾向を示している。

b. 「地図+ α 」の全教科書に占める枚数と割合(%)は389枚中366枚で94.1%と95%に近い数値で、非常に高いことがわかる。

2. 「連続型と非連続型の併用」での読み取りの促し

① 3社4教科書とも枚数の多い順、「1種類」、「2種類」、「3種類以上」。「1種類」が非常に多く。「2種類」はかなり少なくなる。「3種類以上」は非常に少ない。割合(%)も同じである。

② 1種類の「非連続型」での読み取りの促し

a. 「地図」：全教科書で最も多い。

b. 「グラフ」：A社・2、B、C社では3番目である。A社・1では2番目である

c. 「模式図・イラスト」：A社・2、B社とC社で2番目。A社・1で3位。増加傾向。

d. 「表・資料」：全各改訂版の枚数も非常に少ない。

「模式図・イラスト」の位置付けは上昇傾向「グラフ」の位置づけは低下傾向である。

割合(%)も同じ傾向である。

③ 2種類の「非連続型」での読み取りの促し

a. 3社4教科書で上位3位までは、「地図+グラフ」、「地図+地図」、「地図+模式図・イラスト」、「地図+表・資料」のいずれかが占める。「地図+ α 」の組み合わせが中心。割合(%)も同じ。

b. 「地図+ α 」の全教科書に占める割合(%)は695枚中606枚で87.2%と、ほぼ

90%に近い。

2) 考察

1. 総量的分析で得た結果

久保（2024b）が行った分析結果を要約すると以下ようになる。

- ①「非連続型のみ」と「連続型・非連族型併用」での読み取りの促しが増えてきており、「非連続型」での読み取りの重要性が高まっている。
- ②「非連続型」では「地図」による読み取りの促しが最も多い。
- ③「グラフ」が2番目に多い。
- ④「模式図・イラスト」が3番目で、読み取りの促しも増加しつつある。

2. 総量的分析結果と今回の分析結果との比較・考察

- ① 上記の1.の①、②については、今回の分析においても同じ結果を得た。
- ② しかし、上記の1.の③、④については、「グラフ」が2番目で、「模式図・イラスト」が3番目と明確に言い切れない結果となった。教科書によって、「模式図・イラスト」が2番目で、「グラフ」が3番目と位置付けが逆転している場合がでてきている。
- ③ ②のような逆転現象は、「模式図・イラスト」での読み取りの促しが増えてきていることによる。これは、「地理総合」の「防災教育」の単元での「模式図・イラスト」の増加と考えられる。このことに関しては、今後、精査していきたい。

注

- 1) 学習指導要領において、地図帳は教科書として取り扱われている。
- 2) 「連続型テキスト」の定義は、「文と段落から構成され、物語、解説、記述、議論・説得、指示、文章または記録など。」である。「資料4-9PISA 調査（読解力）の結果分析と改善の方向1PISA 調査における読解力の定義、特徴等」（文部科学省ホームページ(2005)）による。

- 3) 「非連続型テキスト」の定義は、「データを視覚的に表現した図・グラフ、表・マトリクス、技術的な説明などの図、地図、書式など。」である。「資料4-9PISA 調査（読解力）の結果分析と改善の方向1PISA 調査における読解力の定義、特徴等」（文部科学省ホームページ(2005)）による。
- 4) 対象教科書出版社：帝国書院、東京書籍、二宮書店
- 5) 注2および注3を参照。
- 6) 碑文、古文書などは正確に言えば「連続型テキスト」に当たるかもしれないが、景観写真の読み取りの促しにおいて、「解説文」や「コラム文」と果たす役割が異なるので、「非連続型テキスト」と分類した。

参考文献

- 朝倉隆太郎・平田嘉三（1962）：調査の結果からみた指導上の問題点2 社会, 中等教育資料 11-7（133）, pp. 9-18 文部省 13p.
- 沖 慶子（2002）：明治期の地理書および地理教科書における写真資料の導入, 人文地理学会大会研究発表要旨
- 久保哲成（2024a）：中学校社会科地理的分野教科書掲載の景観写真の読み取りに使用する連続、非連続型テキストの数的推移とその分析—A 社出版の昭和61年教科書から令和2年教科書を分析対象として—, 兵庫地理 69 pp. 119-132.
- 久保哲成（2024b）：高等学校「地理A」・「地理総合教科書掲載の景観写真の読み取りを促す連続型・非連続型テキストの数的推移とその分析—3出版社の教科書を対象とした総量分析—, 地理教育研究 35, pp. 54-59.
- 澤田康徳(2016)：小学校地図帳における世界に関する地理写真の内容の変化—自然事象を中心として, 2015年度日本地理学会春季学術大会発表要旨
- 田中 薫(1935)：『地学写真』, 古今書院, 182p.
- 文部科学省ホームページ（2005）：小・中・高校教育に関すること > 確かな学力 > 参考資料

＞平成16年度 臨時全国都道府県・指定都市教育委員会 指導主事会議（平成17年1月19日開催）＞資料4-9 PISA調査（読解力）の結果分析と改善の方向＞1 PISA調査における読解力の定義，特徴等

(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/1379669.htm)

（くぼ てつなり：神戸学院大学・非）